



# HOSEI Global challengers Camp

## 実施レポート

多様性と公平性が求められる現代社会において、地球規模の課題の解決にはソーシャルアントレプレナーシップが求められます。本プログラムでは、世界で活躍する社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）や法政大学教員の講義を通じて、多様な価値観や社会起業家として必要とされる資質を全国から集まった23名の中高生が学びました。また、参加者同士のディスカッションや英語でのプレゼンテーションを通じて、グローバル人材に必要なスキルを実践的に学びました。プログラム中は法政大学の学生がメンターとして参加者たちをサポートし、5日間大学生の先輩と共に大学で過ごすことで、参加者たちが大学進学を真剣に考えるきっかけを提供することができました。

1. 実施概要
2. スケジュール
3. フォトギャラリー
4. スタッフ一覧
5. アンケート・参加者・小学生の声
6. 動画等

# 概要

## 1, 期間

2024年8月19日～23日

## 2, 開催場所

法政大学市ヶ谷キャンパス

## 3, 参加人数

23名

※参加費：10万円

※全額奨学生：5名

※地方奨学生(半額免除)：6名

## 4, 事前選考

有り(エッセイ及び面接)



## 5, 応募地域

北海道、福島県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、大分県、佐賀県、沖縄県

## 6, 参加学校

S高等学校、福島県立福島高等学校、つくば国際大学東風高等学校、所沢西高等学校、  
顕明館中学高等学校、大妻中野高等学校、日本大学鶴ヶ丘高等学校、雙葉高等学校、  
法政大学高等学校、三輪田学園高等学校、日本大学第二中学校、法政大学中学校、  
神奈川県立川崎高等学校、法政大学国際高等学校、法政大学第二高等学校、  
岡崎市立滝海中学校、東明館高等学校、ルーテル学院高等学校、沖縄尚学高等学校附属中学校

## 7, プログラム内容

参加者自身が選んだ社会課題のテーマ(教育・マジョリティとマイノリティ・地域・ジェンダー)について課題を設定し、5年後の目標と、それを達成するためのプロジェクトをチームで立案しました。最終日のプレゼンテーション大会では、それぞれのプロジェクトを英語で発表を実施。また、プロジェクトの立案過程で、本校教授や実際に社会課題に取り組む社会起業家からのレクチャーを通して、本学在校生メンターのサポートを受け、自分たちのプロジェクトに磨きをかけていきました。



# スケジュール

## Day.1

- ✓ オリエンテーション
- ✓ プロジェクトの進め方
- ✓ ウェルカムパーティー

## Day.2

- ✓ 大学説明・キャンパスツアー
- ✓ キーノートセッション「Diversity, Equity and Inclusion」 KHOR Diana  
法政大学副学長 グローバル教養学部教授
- ✓ Role Modelセッション① Osama Bin Noor 氏  
Co-founder & COO of Youth Opportunities, Forbes Under 30 Honoree,  
Queen's Young Leaders Awardee
- ✓ Role Modelセッション② 岩澤直美 氏  
株式会社Culmony 代表取締役、東京大学大学院 博士課程、  
Abema Prime コメンテーター、One Young World Ambassador

## Day.3

- ✓ Role Modelセッション③ 星賢人 氏  
株式会社JobRainbow 代表取締役CEO、Forbes 30 UNDER 30 in ASIA / JAPAN 選出  
孫正義育英財団会員、板橋区男女平等参画審議会委員
- ✓ ランチセッション「海外に飛び出すには」 中山智雄 氏  
Chief Global Partnership Officer 文部科学省 トビタテ！留学JAPAN
- ✓ Presentation Skills in English Mark Birtles  
法政大学GIS 専任講師
- ✓ グループワーク

## Day.4

- ✓ グループワーク

## Day.5

- ✓ Final Presentation  
審査員：KHOR Diana 法政大学副学長 グローバル教養学部教授  
福岡賢昌 法政大学グローバル教養学部 学部長 教授  
Osama Bin Noor 氏 Co-founder & COO of Youth Opportunities  
Marwa Elgezery 氏  
Head of Sakura International School Elementary School
- ✓ Closing Party

## Day.1

- ✓ オリエンテーション
- ✓ プロジェクトの進め方
- ✓ ウェルカムパーティー



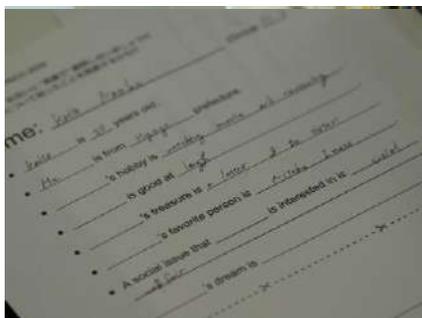
## Day.2

- ✓ 大学説明・キャンパスツアー
- ✓ キーノートセッション「Diversity, Equity and Inclusion」 KHOR Diana
- ✓ Role Modelセッション① Osama Bin Noor 氏
- ✓ Role Modelセッション② 岩澤直美 氏



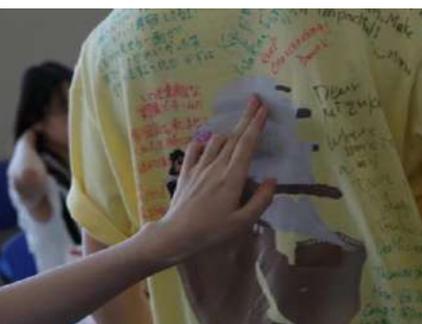
## Day.3 Day.4

- ✓ Role Modelセッション③ 星賢人 氏
- ✓ ランチセッション「海外に飛び出すには」 中山智雄 氏
- ✓ Presentation Skills in English Mark Birtles
- ✓ グループワーク



# Day.5

- ✓ Final Presentation
- ✓ Closing Party



# スタッフ一覧

## ◆ Speaker



**KHOR Diana**  
法政大学副学長  
グローバル教養学部教授



**Osama Bin Noor 氏**  
Co-founder & COO of Youth Opportunities, Forbes Under 30 Honoree, Queen's Young Leaders Awardee



**岩澤 直美 氏**  
株式会社Culmony 代表取締役  
東京大学大学院 博士課程  
Abema Prime コメンテーター  
One Young World Ambassador



**星 賢人 氏**  
株式会社Job Rainbow 代表取締役CEO  
Forbes 30 UNDER 30 in ASIA / JAPAN  
孫正義育英財団会員  
板橋区男女平等参画審議会委員



**Mark Birtles**  
法政大学  
グローバル教養学部専任講師

## ◆ Judge



**福岡 賢昌**  
法政大学グローバル教養学部  
学部長 教授



**Marwa Elgezery**  
Head of Sakura International School Elementary School  
SEINA Japan-Board Member  
IBOP examiner/CIS/WASC Evaluation team leader

## ◆ Organizer



**松田 一重**  
法政大学  
グローバル教育センター事務部  
国際交流課



**空田 真之**  
Learning in Context 代表  
法政大学文学部卒業生



**野瀬 祥子**  
法政大学  
グローバル教育センター事務部  
国際交流課



**市川 太一**  
World Road株式会社 CEO

## ◆ Mentor



**米山 ちはる**  
法政大学  
グローバル教養学部 3年生



**堤 ありす**  
法政大学  
経営学部 4年生



**加藤 花蓮 スザンヌ**  
法政大学  
グローバル教養学部 2年生



**南光 開斗**  
法政大学  
現代福祉学部 2年生



**八代 麻里奈**  
法政大学  
デザイン工学部 1年生

## 参加者の声

### キャンプ全体の満足度は？

**96.1%**

違う学年が混ざり合うことで私はたくさんの刺激をもらうことができ、このプロジェクトを通して学びたかったことを見つけられました。また、メンターの方達とたくさん関わって、私の興味があった留学の話がたくさん聞けて、嬉しかったです。先輩とも関われ、受験勉強のことや、他にもたくさんアドバイスをいただけて、すごく尊敬する部分がたくさんあり、それもまた勉強になりました。このプロジェクトに参加して本当によかったです。すごく濃い、5日間になりました。

仲間、メンターさん、講演に来てくださった方、スタッフさん、いろんな人からたくさんの新しい視点や考えを得られ、キャンプを通してものすごく自信ができました。

中高生・メンター・コーディネーター・職員・登壇者のみなさんと5日間交流できたこと。それは普段学校内で経験できない貴重な時間だった。これらの交流は自分の進路や視野に大きな影響を与えてくれた。

### 今回学んだことを今後どう活かしていきたいですか？

ほぼ初対面の年が近い人と行動を共にし、社会問題への解決策を考え、実際に事業を行っている大人たちに見ていただく機会は学校では絶対にできないレベルの高いことだと思うので自信を持って生活していきたいし、わたしたちのような子供でも社会を変えることができることを知ったので変えたいことは行動にすぐ起こして変えたいと思います。

ここで学んだプレゼンテーションスキルを、学校の授業や社会人になった時のプレゼンに活かしたい。また、大学受験を乗り越えたら、ここで考えたビジネスにも着手したい。

このプロジェクトに参加した理由であった、同じ意識を持って集まった他の人たちから刺激をもらうこと。進路に着いて考えるきっかけにしたい。ということを達成できました。この経験を活かして、これからの進路も一つに絞り、目標に向かって頑張っていきたいです。

参加者から多くの刺激をもらうことができたので自分の進路の参考にしながら日々新しいことにチャレンジしていきたいです。

### 法政大学への関心度は高まりましたか？

**85.7%が「とても高まった・高まった」と回答**

様々な学部があることグローバル化にとっても力を入れていてとても興味を持った。

前から興味を持っていたが、さらに法政に行きたいと思ったから。

グローバルな活動や留学制度が充実しているのを知って、魅力的だと思った。

正直最初は法政にそこまで興味がなかったんですけど、5日間過ごして法政もいいなーって思うようになりました。

# 奨学生の声①

学校・学年：愛知県岡崎市立竜海中学校3年生

テーマ：格差×教育

## 参加しようと思った理由はなんですか？

私がこのキャンプに参加したいと思った理由は三つあります。私は今年受験生で、公立か私立、普通科か国際科など進路を迷っています。そのため一つ目の理由として、キャンプを通して進路について考えるきっかけや、大学進学を踏まえて高校の進路を考えることができたらいいと思ったからです。二つ目は、これまで様々な経験をしてきたロールモデルの人達のお話を直に聞けることが魅力的だと思いました。三つ目は、同じ興味や意識を持つ仲間と5日間過ごし、一緒に課題に取り組むことで、周りからたくさんの刺激をもらえると思ったからです。

## 参加を通して得たものありますか？

私はこのキャンプを通して「プレゼンテーション力」を得ました。プレゼンをするために資料やデータの集め方、シートを効果的に見せる方法など、これから社会に出て行く上で役に立つことを学びました。また、「社会性」も改めて身につけたと思います。初めて会う人との関わり方、礼儀、一つの目標に向けてチームで協力することの大切さなど、多くのことを学びました。また、同年代なのに、様々な考えを持っている「尊敬できる仲間」と出会い刺激をたくさん受けました。全国から集まった仲間との出会いにとっても感謝しています。そして、大学のスタッフさんやメンターさんなど、このキャンプに携わる人がたくさんいることを知り、「感謝の気持ち」を持ちました。

## この経験を今後どう活かしていきたいですか？

私は今回のキャンプで、もっと英語で自分の意見を言えるようになりたいと思いました。プレゼンでは用意した原稿を読むことに必死で、審査員の英語の質問に英語で答えることができませんでした。この経験から、世界共通語である英語を使って自分の考えを発信できる力を身につけるために、今後もっと勉強したいと思うようになりました。また、このキャンプで先輩から自分を理解することが大切だと教えてもらいました。自分の得意や好きということをもっと伸ばしていくことが私には必要だと思います。このキャンプで経験したことを活かして、これからの高校・大学・就職の進路選択、人生選択をしていこうと思います。

## 奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

最初は法政大学が東京にあり、遠くて交通費がかかるのでどうしようか迷っていましたが、このキャンプには奨学金の制度があったので応募しました。その奨学金のおかげで交通費など心配せずに参加する決心をすることができました。このキャンプではロールモデルのすごい方たちのお話を聞いたり、同年代の仲間と協力して活動したりして、今回参加して本当に良い刺激を受けました。また同じようなキャンプがあれば参加したいです。今回このような素晴らしい機会を与えてくださりありがとうございます。奨学金は私のような地方に住む学生が直面する地域格差をなくしてくれて、感謝しています。

## 奨学生の声②

学校・学年：穎明館高等学校 2年生

テーマ：格差×地域

### 参加しようと思った理由はなんですか？

一番の魅力は人との出会いです。全国から意識の高い中高生が集まること、そして同じ寮に5日間泊まるので仲が深まると思いました。大学生メンターとの出会いも大学進学や、将来のことを考えることにつながると思いました。またAllEnglishで大学の講義を市ヶ谷キャンパスで受けられることは貴重な機会であり、自分が大学生になった時の姿を想像できると考えました。他にも最終日に実施される英語でのプレゼンの機会は、これから世界中で活躍したいと考える私の人生では重要なライフイベントです。これらの理由から今回私はサマーキャンプに参加しようと思いました。

### 参加を通して得たものありますか？

課題解決能力やチーム力が身に付きました。

私はグループのリーダーではありませんでしたが、メンバーのひとりとして積極的に発言をしました。グループ内での意見が固まり、意見がそれ以上でてこない時、あえて別方向の考えを示し他の角度から課題を見つめ直しました。それにより自分たちのグループの意見をブラッシュアップでき課題の解決策を明確化しました。

他には役割分担の重要性の理解です。チームのメンバーの中にはスライド制作が得意な人、アンケート制作の能力に長けている人、論理的思考をする人などがいて、それぞれが自信のある分野を担当しました。それにより無理なくプロジェクトを進行でき、チームの素晴らしさや意義を痛感しました。

### この経験を今後どう活かしていきたいです

同年代の参加者、運営の方々から本当に様々な刺激を受けました。トビタテ留学をしていた高校生からはトビタテ留学の魅力や仕組みを教えてもらい、自分も挑戦しようかと考えるきっかけになりました。またDay3のトビタテランチボックスでは留学の有識者の方に質問できる時間がありました。そこで私は海外大に進学する際の奨学金について質問しました。有益な情報を得ただけでなく、私の海外大進学を応援してくださいました。これらは私にとって大きな成長で、それまでは海外大進学に対して現実味がありませんでしたが、より海外大に行きたいという自分の意思を強くしました。今後は海外大学進学のために奨学金情報を集めることと英語の勉強をしようと考えています。

### 奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

このサマーキャンプに興味がありましたが、参加費用のために応募しようか悩みました。

それは今夏留学に行ったため、家庭の負担が増えることに懸念があったためです。出来るだけ家庭に負担をかけたくない私は参加を悩んでいました。ですがその時、このプログラムに奨学金の枠があることを見つけ応募を決心しました。私は奨学金がなければ参加しておらず、素敵な友人との出会いはなかったでしょう。自分の努力により参加費が免除されるこの制度は非常に素晴らしいです。なので私は引き続きこの奨学金の制度を続けてほしいと強く願います。

## 奨学生の声③

学校・学年：福島県立福島高校2年生

テーマ：格差×地域

### 参加しようと思った理由はなんですか？

学校の英語の先生に勧められ、このキャンプを知りました。元々社会課題について興味があり、今までも様々な取り組みをしてきましたが、ありきたりな帰着点になっている感覚がありやるせなさを感じていました。このキャンプでは、実際にプロジェクトを立ち上げている方のお話を聞いたりすることができると知り、今まで自分が固執していた考えに囚われず、成長するチャンスではないかと思いました。また、英語で最終プレゼンを行うことも、新鮮で魅力的でした。

### 参加を通して得たものありますか？

自分たちにできること、を考えていくことです。社会課題を解決するとなると、どうしても行政規模の施策を考えてしまいがちだと思います。(私たちの班も、最初その規模で考えていました。)やはり、行政規模の取り組みの方が影響力があるうえに、より波及しやすいのは確かですが、自分ごととして考えられなくなってしまうので、ターゲットを明確にしつつ理想も持ってプロジェクトを考えるのが良いと学びました。理想と自分たちの立場のバランスが、プロジェクト作成において重要だと気づきました。

### この経験を今後どう活かしていきたいです

私は将来国家公務員になりたいと考えています。省庁にもよりますが、先程の行政規模のプロジェクトを作り上げる側になるかもしれません。しかし、その場合においてもターゲットを明確にすることや、目指す理想像を持ち続けたいと思います。また、今回班のメンバーで得意分野を補いつつプロジェクトを作成していきました。今後グループ活動をする時には、自分や相手の長所を見つけた上で、それぞれがリーダーシップを持って良い雰囲気でも活動できるように尽力したいと思います。

### 奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

福島から東京まででは交通費も安くない上に、家計がそこまでゆとりがないことも理解していたので、今回のキャンプに参加する上で1番懸念していたのが金銭面でした。母は私のやりたいことはなんでもやらせたいと後押ししてくれましたが、とても心苦しかったので、今回の奨学金制度は、精神的にも金銭的にもとても助けになりました。

## 奨学生の声④

学校・学年：神奈川県立川崎高校3年生

テーマ：格差×マジョリティ・マイノリティ

### 参加しようと思った理由はなんですか？

As a student in a Japanese school, I rarely get to use English, so the opportunity to discuss and present in English at this camp caught my attention. Guest speakers were a major factor in my decision to join because their accomplishments align with my future goals of fostering diversity in Japanese society. I've always been hesitant to take the first step and needed a push to evolve before entering university, feeling I wasn't good enough.

I was eager to learn from others' diverse backgrounds and perspectives. Additionally, I was also interested in Hosei university, particularly GIS, and saw this camp as a great chance to learn more

### 参加を通して得たものありますか？

Hearing from the guest speakers gave me the push I needed to strive toward being a better version of myself. Their stories revealed that my own fears were minor compared to the challenges they had faced, motivating me to push my limits. I also had the opportunity to meet new people, learn about their backgrounds, and form friendships, which deepened my understanding of them. However, during the project-making phase, our team encountered problems; our differing opinions led to a standstill. Eventually, we decided to restart the project, and everything went smoothly from there. The key lesson I took away from this experience is that sometimes, the best way forward is to take a step

### この経験を今後どう活かしていきたいです

By the research we did, we found out that in this world there is a lot of information regarding sexual minorities available but a lack of medium to reach the majority community. So, I want to explore ways to create opportunities to educate the general public to have basic knowledge on LGBT community. During the group work I was in charge of the presentation slide, by focusing on making the slide less crowded with words by removing unwanted information I was able to deliver the project well. From this experience, I was inspired to make a website that explains the basic information using simpler terms.

### 奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

Thanks to the scholarship, I was able to have the privilege of meeting students from all over Japan and was honored to meet guest speakers and question them personally about their experience of creating a platform to solve the social problem. I am not from an affluent family so if it were not for the scholarship I wouldn't have met the mentor (Mr. Osama) who grew up in a similar environment as me nor thought that I could contribute to the society in my way. I hope that this scholarship should continue so that in the future underprivileged students have a chance to be empowered to pursue their own project.

## 主催者コメント

“Just as wearing glasses is a 'natural way' to help a near-sighted person see better, equity is not about unfairly privileging one group but about equalizing conditions for everyone.” “Can a preference for a particular educational path mask underlying inequality?” “Should people who oppose diversity be considered part of (our concept of) diversity?” “Why do we need to be ‘leaders’?” Now, imagine these insightful comments and questions coming from middle and high school students—on the very first day of the Hosei Global Challengers Camp! By the final day, after an intense week of learning, thinking, and collaboration, these bright, passionate, and utterly charming students presented the fruits of their hard work. Their impressive growth reassured us that we made the right decision in taking on the challenge of hosting this camp at Hosei University. And yet, I know I’ve only had a glimpse of their potential. I’m eagerly awaiting the day when they flourish fully, both at university and beyond.

「近視の人がメガネをかけることが『自然な方法』で視力を補うのと同じように、エクイティ（公平性）は特定のグループを不当に優遇することではなく、誰に対しても条件を平等に整えることです。」「特定の教育の道を選ぶ好みや、隠れた不平等を示している可能性はありますか？」「多様性に反対する人を、私たちの『多様性』の概念に含めるべきでしょうか？」「なぜ私たちは『リーダー』になる必要があるのでしょうか？」これらの鋭いコメントや質問が、中学生や高校生から出てきたと想像できますか？しかも、法政グローバルチャレンジャーズキャンプの初日にです！最終日には、1週間の学びと思考、グループワークを経て、これらの聡明で情熱的かつ非常に魅力的な中高生たちが、その成果を見事に発表しました。中高生たちの著しい成長を見て、私たちがこのキャンプを法政大学で開催するという挑戦を引き受けたのは正しい選択だったと確信しました。そして、中高生たちの持つ潜在能力の一端を垣間見たに過ぎないと感じています。中高生たちが大学やその先でどのように成長していくのか、楽しみにしています。

KHOR Diana 法政大学副学長 グローバル教養学部教授

## 動画のスクショとQR



### 【ご連絡先】

法政大学グローバル教育センター事務部国際交流課

03-3264-4088

ic@hosei.ac.jp